

年を重ねるだけで人は老いない 理想を失うとき 初めて老いる

(サムエル・ウルマン)



水郷水元公園一大場川沿いの桜並木を望む

-2000. 4. 6 健康ウォークの会-

退職者

こだま会報

NO.48



総会開催の御案内

「退職者こだま会」第一六回定期総会

☆相談コーナー

●相談開始 一一時

総会に先立ち、ゆつくり相談
できるように時間をとりまし
た。御利用下さい。

年 金 山口順久氏(社労士)
相続遺言 生方武羅夫氏
(行政書士)

介護保険 川井弘次氏
(厚木市民生委員)

食 事 上野多恵子氏
(管理栄養士)

退職されて未加入の方も当日の
来場・入会 大歓迎です。皆様お
誘い合わせて、御出席下さい。

総会終了のあと、2F和風
レストラン「円山」において、
懇親会を開きます。

六時頃までの一刻を飲物、
軽食を頂きながら語らい、
カラオケ、舞踊など飛入り
歓迎で楽しく過ごしましょ
う。
(会費二千円)

●とき

六月二八日(水)
午後一時三〇分～四時

●ところ

神奈川県自治会館 (旧職員会館)
七階七〇一～七〇三号室
(電話) 〇四五(664)七五〇〇

●交通

桜木町または横浜駅から、バス
で神奈川県自治会館前下車、
徒歩一分

●総会議案

二～五頁を御覧下さい。

第一六回 定期総会報告・議案

一九九九年(平成一年)度

経過報告

I 会員一〇〇〇名の組織に

前年度の会員数九二六名(年会員九〇名、終身会員八三六名)から一年度は七三名増えて九九九名に(年会員一一二名、終身会員八八七名)になりました。

今年度も職員課主催の退職予定者説明会五回と県職労各支部の退職者慰労会八回に役員が分担して出席し、加入をすすめました。

説明会では会報や退職者向けの年金・医療・雇用保険関係を取録した資料に関心が寄せられ、説明会後も資料送付の依頼電話が多数ありました。

II 三委員会の活動

*運営・財政や地域ブロック化を

検討 (企画委員会)

会を一層魅力的なものにし民主的な発展をはかるために、運営や財政の効率化を検討しました。

「横浜中心から地域ブロックでの活動へ」や、会員の要望にそった新

しい事業の企画など、基本的な方向を話し合いましたが、なかなか具体化できませんでした。

財政の確立にむけて、事務局など日常業務の執行に必要な支出の基準や帳票の整備を提案し、改善につとめました。

「年金改悪」反対の要請書を、国会の情勢にあわせて、自民・自由・公明・民主・共産・社民など各党に送付しました。



「会則」の整備は、引き続き議論していきます。

*メニューが多彩になった趣味の会

(趣味の会推進委員会)

今年度の趣味の会は、従来の活動に新たなメニューも加わって多彩な活動となりました。

歴史教室は、中村猪一郎会員を講師に、講義二回、散策二回を実施、世話人会があるため定着した活動が行われました。

観劇の会は、国立大劇場を二割引きで、春秋二回行われ延五六名の参加を得て楽しみました。

食文化をたのしむ会は、夏冬二回行われ上野多恵子会員の指導により健康に役立つ薬膳料理の講習、鈴木志げ子会員による抹茶の飲み方知識などを聞き、語り合う会となっています。

今年度初めて計画した薬膳料理を食べる会が中華街陽華樓で行われ料理長自らの説明も交えて有益でした。薬膳を中心とした食の催しは会員の健康管理に役立っています。

健康ウォークの会は、春一回参加者二五名大和市の「泉の森」に市川清会員の案内で森林浴も含めて有意義な時をすごしました。

秋は寅さんの里柴又を訪ねる予定でしたが大雨のため流会しました。

会員から希望のあった俳句の会は実現できませんでしたが、会報に俳壇が設けられます第一歩を踏み出すことが出来ました。

旅行の会は、残念ながらバス一台借り切る人数が足りず今年度は見送りましたが、会員からの希望も出ているので来年度検討と言うことにな

りました。

また、今年初めて行われた会員の指導で、ハーブの石けん作りは六名の参加で好評でした。いづれも今年度は会員の特技を活かした会の活動が多く行われました。

*会員とともにつくる会報を

目指して (広報編集委員会)

会報45ノ47号、総頁36頁を刊行しました。

会員の会報参加を促すため原稿料のきまりを設けて、「投稿のお誘い」を載せるなどしたので、効果が少しずつ見えてきました。

また、趣味の会と連携して会員の特技の活用を、会報に反映するよう努めました。

発刊が遅れ気味でしたが、ほぼ目標達成と思えます。

新退職者向けのチラシを作成しました。

III 会の運営

○業務の効率的執行について

会の業務を効率的に執行するため、毎月定期的に事務局長を中心として代表幹事以下会計を含めた四役打合せ会を開き、三委員会の自主的活動の推進と会運営の基本的事項について幹事会に図り、実施してきました。

○会の財政確立と会計処理

会の財政は終身会費を積立てる積立金会計と、年会費、県職労交付金、全労済等の事業収入に加えて積立金会計から一定の比率で取りくずし、執行する一般会計の二通りとなっています。今年度はこの二つの会計処理のあり方を整理しながら二回の収支状況の報告と一部予算の更正も図りながら執行してきました。

特に留意した点は一般会計の支出を節約し、会の今後の財政確立のため積立金会計の充実を図りました。この結果、積立金は念願の一千万円を超えることが出来ました。

また、事務局の日常的業務を果たす役員について時間を区分しての行動費、会報の原稿執筆等に対しての原稿料など、それぞれ支給基準を定め、幹事会の承諾を得て支出してきました。

IV その他

○県職労をはじめ退職者組織との共同

会の活動と県職労運動との連携を深めるために県職労大会、壮年部総会や新年旗開きへの参加と共に今年度は、県職労執行

部と会四役による懇談会も実施し、課題となっている問題や、外語短大金子先生裁判支援の重要性についても理解を深めました。

また、一昨年(一九九八年)結成された全国自治体退職者連絡会の事務局行動にも協力し、年金改悪反対の国会請願やその他の諸行動にも参加してきました。

なお、神奈川自治労連退職者会には前年度に引続き会長、事務局次長、幹事、監査に五名を送り、総会、「手づくり文化祭」、「新春のつどい」など諸行事の成功のため協力してきました。

○高齢者運動への参加

社会保障制度の充実を求める高齢者の要求運動が強まる中で一〇月四、五日の両日横浜で開催された関東甲信高齢者集会には会から役員五名が参加しました。

また、二〇〇〇年一〇月一、二日に横浜で開かれる第一四回日本高齢者大会成功のため八月に発足した神奈川県実行委員会には、神奈川自治労連退職者会を通して二名の役員を送り、活動に協力しています。

一般会計 1999年(平成11年)度収支決算

収 入				支 出			
項 目	予算額	決算額	摘 要	項 目	予算額	決算額	摘 要
1.年会費	240,000	264,000	@3,000円×88名	1.事務局費	970,000	740,227	
2.終身会費	1,500,000	1,275,000	@25,000円×51名	2.行動費	180,000	100,620	
3.県職労交付金	900,000	900,000		3.広報費	800,000	718,554	会報の発行費
4.事業収入	500,000	593,088	全労済事務経費	4.総会費	600,000	485,718	
5.雑収入	146,003	144,816	総会懇親会負担金ほか	5.会議費	270,000	239,660	幹事会その他諸会議
6.積立金取崩し	910,000	903,574		6.通信費	300,000	63,280	
7.寄附金	0	300,000		7.弔慰金	70,000	70,000	会員死亡7名@10,000円
8.前年度繰越金	603,997	603,997		8.積立金	1,500,000	1,500,000	
				9.特別積立金	0	300,000	
				10.予備費	110,000	0	
				11.次年度繰越金	0	766,416	
計	4,800,000	4,984,475		計	4,800,000	4,984,475	

積立金会計 1999年(平成11年)度収支決算

収 入				支 出			
項 目	予算額	決算額	摘 要	項 目	予算額	決算額	摘 要
前年度繰越金	8,834,576	8,834,576		本年度支出	910,000	903,574	
本年度収入	1,515,684	1,810,226		次年度繰越金	9,440,000	9,741,228	
内訳	積立金	1,500,000	1,500,000				
	特別積立金	0	300,000				
	利息	15,424	10,226				
計	10,350,000	10,644,802		計	10,350,000	10,644,802	

会計監査報告

1999年(平成11年)度一般会計並びに積立金会計について、それぞれの収支証拠書類、預金通帳等の監査を致しました結果、妥当に執行されているものと認めます。

2000年4月18日

監査 古怒田富士一 ㊦ 上野多恵子 ㊦

二〇〇〇年(平成一二)年度 活動方針(案)

I 私たちをとりまく情勢

三月二十八日、「年金改悪法」が、自・公三党の賛成で可決成立しました。

いま年金を受けている人もこれからは、現役労働者の賃金の伸びにあわせて年金金額を引き上げていた「賃金スライド」が廃止され、四月から新しく年金を受け始める人は、これにくわえて報酬比例部分の支給額が5%削られます。支給開始年齢は段階的に六五才へ繰り延べられ、生涯に受け取る年金額は一、二〇〇万円も減らされることになりました。総務庁が三十一日発表した二月の完全失業率は四・九%で過去最悪になりました。完全失業者は三二七万人、一家の大黒柱「世帯主失業者」は九七万人と過去最多です。さらに日産自動車二万一千人、NTT二万人、三菱自動車八千人など、大幅なリストラが相次いで発表されました。こうしたなかで政府は雇用保険法を改悪し、失業給付を最長四ヶ月分も削減しようとしています。

四月一日から開始された介護保険も、認定されたあと「ケアプランが

できていない」、「施設がたりない。事業者との契約が不成立だ」、「負担が数倍になる」など、制度そのものがわかりにくいこともあり、サービスを受けられない高齢者が続出しています。

東京都議会は三月三十日、七八万人に支給されている「無料シルバーパス」を全面有料化し、六五才から六九才の「老人医療費助成」や、寝たきりの高齢者に月額三万五千五百円支給している「老人福祉手当」など軒並み切り捨てる条例改悪案を、自民・公明の賛成で可決しました。

神奈川県でも、従来支給していた「家庭介護者介護見舞金」年三万五千円を今年から二万二千円に、来年は一万一千円に減額し、三年後には廃止することを決めました。そのために、県下各自治体も続々と廃止の方向で検討が進められています。

2000年で廃止Ⅱ三浦、寒川、松田、箱根、津久井、相模湖
2001年で廃止Ⅱ逗子、南足柄
2002年で廃止Ⅱ茅ヶ崎、開成、鎌倉
座間市のみ、六万円を一〇万円に引き上げる改善をしています。

敬老金については、従来70才以上に支給していたものを数年前から77才、88才、99才、100才のみにし、昨

年からは88才、99才を対象を減らしてきています。

「財政が赤字だから」と言います。しかし政府は、ゼネコンむけのムダな公共事業に年間五〇兆円も使い、国民むけの社会保障には二〇兆円しか使っていません。「老人介護」も、四月から保険制度になり、国民から保険料が入ってくるからと、いままです国が出していた財政負担を半減させ、逆に二千三百億円も切り下げてしまいました。

この一年間をみても、アメリカの戦争に日本をまきこむ「ガイドライン法」、盗聴法、「日の丸・君が代」法、衆院比例定数削減、政党への企業献金継続、警察腐敗など、かずかずの悪政が推進されました。

私たちの命と暮らしを切り捨て、平和をおびやかすこのような政治を、みんなで力を合わせ、一步一步かえていこうではありませんか。

II 活動方針

1. みんなが参加できる肩のこらな い催し、要求実現の取組みの推進

☆会員が自由に集まり、お茶をのみながら互いの近況や健康などを語り合う、肩のこらない「談話室(仮称)」を開きます。そこで出された個別の問題は、弁護士・税理士・社

労士・行政書士・建築士など専門家による「相談事業」へ紹介します。会場は横浜だけでなく、地域での開催も検討します。

☆「歴史教室」・「健康ウォーク」・「旅行」・「俳句の集い」など趣味の会の行事や「談話室(仮称)」の日程、県職労壮年部や各支部協議会の行事、例えば「男の料理教室」・「秋のキノコ狩り」・「マラソン大会」・「スキー」など、早目にお知らせし、みんなが利用できるようにします。

☆火災共済・交通災害共済・自動車共済・生命共済・ガン保険など、有利な福利厚生事業を推進します。

☆高齢者福祉の充実と、平和・自由・民主主義の確立をめざして、要求で一致する他団体と協力し、署名運動や対政府・自治体交渉など、要求の実現をはかります。

☆一、〇〇〇名を越えた会の運営を確立し、事務局経費の節減をはかり、効率的な運用に努めます。

☆定年退職時だけでなく、再雇傭が終わった時点での加入呼びかけなど、会勢の拡大に引き続いて努力していきます。「会員基本台帳」の整備をすすめます。

☆一〇月一―二日、第一四回日本高齢者大会が横浜国際会議場で開かれます。「ひとりぼっちの高齢者をなくそう」をスローガンに、「高齢

者の人権を守る」この大会を、みんなの参加で成功させ、明るい日本をつくっていきましょう。

Ⅲ 三委員会の活動目標

●企画委員会

＊会員の要望にそった新しい事業を企画し、基礎的な方向づけや組織化をすすめます。

＊新しく開催される「談話室(仮称)」が楽しいものになるよう、日時・場所・すすめ方・人集めなど具体的に準備します。

＊事業収入の増額や積立金の有利な運用・弔慰金のあり方など、財政の確立にむけて論議を継続します。

＊新設された県職労のインターネット「ホームページ」の活用と、「パソコン教室」の開催を検討します。

●趣味の会推進委員会

本会の活動の中で趣味の会の果たす役割の重要性を再認識し、会員の持つ特技を活用して、多くの会員が参加できるメニューの増大をはかります。

その具体策として

- ・会員の特技の発掘
 - ・世話人による会の運営を増やす。
 - ・各会は独立採算で運営を進める。
- なお今年度の各趣味の会の計画は、次の通りです。

- ・観劇の会 年二回(四月、十一月)
- ・健康ウォーク 年二回(春秋)
- ・食文化をたのしむ会(七月、一一月)

- ・薬膳料理を食べる会(九月末)
- ・歴史教室(講義・散策各二回)

高齡化を考え散策についてはマイクロボスの利用等も検討。

なお、会員から要望のある旅行の会については既成の旅行社に頼ることなく、安く少人数でも出来る旅行等も検討を進めます。

さらに、俳句の会、囲碁の会についても希望があるので実現に努力します。

また、県職労壮年部の催しにも参加を進めます。

●広報編集委員会

＊目標は、豊かな情報と会員でつくる会報を!

＊年4回(総頁38頁)の会報を刊行します。増える1号は、今まで6月の総会の報告が10月刊行と非常に遅くなっていたのを、すこしでも早く届けようと計画しました。

＊したがって刊行は、次のようになります。

- 48号 10頁(6月刊)
- 49号 8頁(8月刊)
- 50号 8頁(10月刊)
- 51号 8頁+4頁(2月刊)

一般会計 2000年(平成12年)度収支予算(案)

収入 支出 (2000.4.1~2001.3.31) 単位 円

項目	予算額	摘要	項目	予算額	摘要
1.年会費	240,000	@3,000円×80名	1.事務局費	850,000	
2.終身会費	1,300,000	@25,000円×52名	2.行動費	450,000	高齡者大会参加費及び地域活動行動費を含む
3.県職労交付金	900,000		3.広報費	950,000	会報4回発行費
4.事業収入	550,000	全労済事務取扱経費	4.総会費	500,000	
5.雑収入	143,584	総会懇親会負担金ほか	5.会議費	300,000	
6.積立金取崩し	900,000	2万円×538名+2.5万円×350名 20年	6.通信費	200,000	
7.寄附金	0		7.弔慰金	70,000	
8.前年度繰越金	766,416		8.負担金	80,000	神奈川県自治労連退職者会負担金などを事務局費から区分
			9.積立金	1,300,000	
			10.予備費	100,000	
			11.次年度繰越金	0	
計	4,800,000		計	4,800,000	

積立金会計 2000年(平成12年)度収支予算(案)

収入 支出 (2000.4.1~2001.3.31) 単位 円

項目	予算額	摘要	項目	予算額	摘要
前年度繰越金	9,741,228		本年度支出	900,000	一般会計へ繰出し
本年度収入	1,313,772		次年度繰越金	10,155,000	
内 積立金	1,300,000	一般会計より繰入れ			
訳 利息	13,772				
計	11,055,000		計	11,055,000	

楽しい趣味の会

趣味の会は、長生きの散歩道
と一緒に歩きましょう!!

部会の申込みは、
葉書で事務局へ

健康ウォークの会

春爛漫!! 寅さんのふるさと

柴又、江戸川堤周辺の散策

とき 四月六日(木)

参加者 一七名

柴又帝釈天 一一時柴又駅前寅さん銅像に集合帝釈天へ。正式名称は日蓮宗経菜山題経寺で寛永六年創立、約40分間大客殿と日本一の樹令千五百年の南天の床柱、大庭園など参詣と見学。

寅さん記念館 帝釈天から約5分先日TVで参観者百万人突破との報道はご存知のとおり、約30分参観。

矢切の渡し 演歌で馴染みになったがもとは、字のとおり合戦場跡、また江戸時代箱根関所同様の取締り殿しい関所跡でもあった。伊藤左千夫の名作『野菊の墓』の舞台。

江戸川堤 利根川から江戸の洪水を防ぐため、家康の命で江戸川を補修・放水路とした。当時としては東

名高速のような大公共事業であった。緑のカーペット堤と吹く風が気持ちよし。

水郷水元公園 中川の支流、大場川の小合溜に沿った唯一の水郷景観公園。68haの広大な園内に大小水路が走り、桜並木満開、ポプラ並木、メタセコイア、10万㎡の芝生広場、まさに北海道の大自然の中にある心地。時間の都合から約半分程度散策し改めて一日がかりで来ることにし帰途につく。金町駅四時解散。



帝釈天山門の前で

歴史教室

○かまくら歴史散策
とき 平成一二年三月一三日(月)

テーマ 平家物語と鎌倉
参加者 一七名
講師 中村猪一郎会員

鎌倉駅すぐ前の大巧寺から出発、若宮大路を南へ、ちよつと目立たない寺の教恩寺による。源平の戦いで奈良東大寺などを焼き、南都からは仏敵とマークされた平重衡が頼朝により暫時留めおかれた場所という。そばの八雲神社では立派なみこしに魅せられながら、疫病退散を願った庶民の鎮守に心を寄せせる。ついで日蓮に尼がぼた餅を捧げたといういわれの常栄寺へ、さらに下馬四つ角の来迎寺で珍しい裸地藏を拝む。

昼は鎌倉家裁となりのレストランで暖かく食事、午後九品寺に向かう。かつて新田義貞が鎌倉攻めの際、陣を布いたところ、寺の編額も義貞の書と伝える。

車道をさけ、しずかな路地を通過して、ふだらく寺へ、石標に頼朝祈願書と刻まれ、文覚僧と頼朝のつながりの濃さを思わせる。

本行程最後の光明寺にゆく。この寺に入ると外陣の広さからか、何となく落着く。阿弥陀・如意輪観音・法然像・和賀江島弁天と注目する仏像に引きこまれるように合掌する。仏専修念仏道場だけに心なしか念仏が喉元に出てくる。生かされている喜

びを実感するひとときかも知れない。こうして歴史散策は鎌倉の下町を八百年前に思いを馳せて歩いた一日であった。

観劇会 第4回

現世を離れて名作を観て

観劇

今年二回目の観劇は、三月一七日(金)国立劇場にて水谷八重子主演の「滝の白糸」を観賞、参加者は会員や家族、友人など巾広く参加されて三二名でした。

明治の文豪泉鏡花作のこの作品は、新派を代表する人気作品として人気役者が演じることで有名です。この歴史ある名作として美しさと切なさを彩った数かずの名場面があり、国立劇場ならではの美しい舞台装置もさることながら、白糸の華やかな水芸を八重子が熟演していて感動しました。今回は、歌舞伎の人氣役者坂東八十助も白糸の恋人役欣弥として出演し、一層色のある舞台となりました。

国立劇場は団体二〇名以上の場合は二割引になり、こだま会もこれを活用しています。人数を確保することが大事で、多くの参加を期待しているところですよ。

予告!! 趣味の会

● 食文化をたのしむ会

とき 七月七日(金) 11時~15時

ところ 横浜市健康福祉センター

(桜木町駅前)

テーマ 夏バテしない薬膳料理

講師 上野多恵子会員

(県薬膳研究会会長)

会費 一、八〇〇円

実習、会食のあと夏の和菓子と抹茶でくつろぎましょう。

申し込みは、六月二十九日(金)までに

ハガキで事務局へ。

秋の観劇会

● 秋の観劇会

とき 一月下旬~二月上旬

の予定

演目 歌舞伎の予定

ところ 国立劇場

詳細は一〇月の会報でお知らせします。

● 薬膳料理をたのしむ集い

安くておいしく、昨年好評だった

薬膳会食を、今年も行います。

とき 九月二十七日(水)

12時30分~15時

ところ 陽華樓南門城

横浜中華街

会費 五、五〇〇円

申し込みは、九月五日(火)までに事務局へハガキで。

● 健康ウォークの会

紅葉の宮ヶ瀬ダムを訪ねる

とき 十一月一日(土)

厚木からバスで行きます。

詳細は、次の会報でお知らせします。ぜひ御参加下さい。

● 歴史教室

とき ①六月一九日(月)

②九月一八日(月)

いずれも13時30分~15時

ところ 神奈川県自治会館の予定

講義 太平記と鎌倉①

②

講師 中村猪一郎会員

「草木染」の講師に

川井弘次さん

この秋県立21世紀の森で開かれる「森の教室」の草木染の先生を、会員の川井弘次さんが勤めます。

一〇月一五日(祝)、興味のある方は

お出かけ下さい。詳しくは事務局までTELを。

こだま俳壇

須藤伸成

梅林の真上ひと筋飛行雲

庭に鶯来てみて妻は落着かず

暮敵を西瓜冷やして待ちにけり

山茶花の向う三軒老いばかり

病院の煙突の煙雪を押す

小川水草

さぶし咲く魚付き林に散策路

ももこと江の島ふくる椎若葉

風呂敷を背負い母来ぬ初寝覚

春雨にダイオキシソ濃し相模湾

六十路半ばあまた恩愛春の星

佐々木一星

土筆の子ウォーキングの足引き

止めて

子雀の呼び台になるいちご鉢

草餅を偲び畑でよむぎ摘む

俳句愛好者へ!!

「俳句教室」を設けることについて、

総会終了後に話し合いませんか。希望

の方は参加について事務局まで連絡

して下さい。結社をこえて新しい句

づくりをしましょう。

初めての人大歓迎です。(事務局)

徘徊游句

新井博美著

2000・4・15刊

読む

神奈川機関紙印刷所(印刷)

著者は県職員OBで、『県職文化』

や『神奈川新聞』に掲載した紀行文

と、徘徊通信と題して恩師、友人に

書いた書簡文をまとめたものです。

I部は海外旅行、II部は神奈川関係

の俳句まじりのエッセイ。

斬新なタイトルの意図は、読むと

明らかになります。



徘徊游句

俳壇に限らず、生活や風景の健康やエッセイや、その直伝のみなさんの

声を大いに寄せて下さい。

次回の49号は8月発行の予定ですが、6月30日頃までにお寄せ下さい。

ささやかですが図書券をお送りいたします。

(編集委員会)

投稿のお誘い

俳句との出会い

今まで俳句にはまったく興味なかった小生が、平成六年に妻のすすめで市主催の「生きがい趣味俳句講座」を受講したのが俳句作りの始まりである。講座の終了後しばらくして徐々におかされてきた脊髄(せきずい)の病気が悪化し、その後長い間の入院生活が続きあらゆる検査、治療を続けてきたのであるが難しい病気を改善するには至らず、以来五年余りの間半分の期間入院生活を送り、現在は車椅子の生活を強いられるようになってしまった。

その間俳句が計り知れないほど毎日の生きる支えとなってくれたのである。

以来病気になって恨みごとを言ったり、悲鳴をあげたりせず病に耐えることとの闘いとなり、その原因は己が身にあり、運命であると決めて心の安静が何より大切であると思っ



てきた。

何かの本で見た一節に「俳句のたのしみは「人に合う」「物に合う」「言葉に合う」よろこびなり」とあった。そして何時の間にか俳句というものが大切な心の糧となっていた。

俳句の勉強をしていて古今東西の俳人や友人の名句に感動することが多くなった。しかし、冷静に自己観察をしてみるとそれは感動というより溜息にちかいかいものであることがわかったのである。溜息が本当の感動として実感できる日の来ることを念

病んで役立つ

多趣味の効用

須藤 伸成

じているところである。

また俳句は戸外で見ると、観る、観るを駆使して作ることが最上と言われており、机の上で考えた作品は実態がないので、読む人の心を捉えられない。そして才能には切れがあるが努力には「過ぎる」という言葉はないと言われている。

車椅子生活の小生が今後一番の問題はふだん机上での作句が多く視野が限られ、詩情がやせてしまうことが心配である。したがって俳句もやせ自己模倣に堕ち入り易く、いかに

マンネリ化から脱出するかを考えていくことが課題であると思われる。

趣味で毎日をたのしく

趣味を三つ以上持つて人生楽しんでいけると生涯、退屈をしないで済む、と以前から聞いていた。

選択する時、金のあまり掛からないもので自分の性格や好みに合い、しかも長く続けられるものを選ぶことに努めてきた。そして退職後は特に病気になるまではダンス、水泳、詩吟、親の住んでいない生家の畑で

野菜作りなどを楽しんできた。

現役時代には趣味に熱中することにより仕事に行き詰まった時、悲哀を感じた時などにはどんなにか強い心の支えとなって役立ち、今日の私があつたと思う。

前述のように現在は病気の身となり車椅子の生活を強いられている関係で趣味の内容が限られてしまったが、現在は俳句のほかに詩吟(現在は弟子二人のみ)、囲碁(へは碁)、写真、退職後造った温室(三坪程)で洋らん作りなどに励んでおり、体

が動く限り病に耐え頑張つて充実した毎を送ることが出来ている。

俳句は生きる喜び

俳句人口は伸びていると言われているが、若い人の意識は少ないようだ。まずは定年後の「ボケ防止で」と言う人が多いが本当の生きがいを求めて自己の力量を磨くには自己の持っている感性を色々な方法で引き出していくべきだと思う。

人間は誰でも詩心(うたごころ)を持つている。美しいものを見て心の躍らない人はいない。自分の力で生み出した作品、すなわち創造するたくましさは「生きる欲(よろこび)」なのである。感動を大切にするところに、真の生きていく証が存在すると思う。

俳句は自分史をも確立する。長い文章を書くよりも、わずか十七文字で感情表現を成し、その時、その場所、状況などが思い出され、家族の雰囲気までもがもし出されてくる。「生きる欲」とはあえて俳句に限ったことばかりではないが自分の趣味を高め、その深さへ迫っていくことであると思う。

古稀何ぞまだまだ若し寒椿

年金情報

年金改悪法が成立

国会の動き肌を感じた 私の座込み参加記

山口 順久

3月28日、年金の改悪法案は共済年金改悪法案を含め、自公三党の賛成多数により衆議院で可決成立しました。年金生活者の私たちにとって賃金スライドの凍結(70歳夫婦は生涯で300万円の減額)など影響は大きいですが、いま懸命に働いている若い現役世代への打撃はもつと大きい。年金額の減額、保険料負担の増大と共に60歳代前半の年金が支給されなくなることで、雇用と年金がなくならなくなり「老後の生活不安」を一層増大させてしまった。

このような国民生活に重大な影響を及ぼす法案審議も自公三党は数の力をたよりにして不十分な審議と強行採決というパターンを衆・参両院でくりかえしてきました。

一方、年金改悪に反対する運動はかつてなく盛りあがった。1月末から参議院で審議が始まりましたが「連合」が、法案成立阻止を明確にして国会前の座り込み行動に立上がった。とかく戦わない労働組合と言われた大組合の「連合」が行動を起こしたのであ

る。国民福祉委員会が開催された毎週火・木曜日、県職労などが加盟する全労連・春闘共闘・社保協などとあわせ最高時は一千名近い座り込みの人々が国会前の通路を埋め尽くした。連合は後半「春闘」が忙しいのか姿を消したが、私たちの全労連などは昨年秋から年末の臨時国会、さらに今年の通常国会の間、寒風吹きすさぶ冷え込んだ日も週二日、絶えることなく座り込みが続きました。

国会内では当初、法案に態度を保留した民主党が連合の行動に合わせ反対と態度を鮮明にし、通常国会では民主・共産・社民の野党三党が結束、共同の要求と見解を発表してかつてなく年金改悪反対の共闘が進みました。参議院の国民福祉委員会委員21名のうち自公は11名、野党三党8名。あとは西川きよし議員(法案に賛成)と堂本暁子議員(参議院の会)と勢力が接近してきました。

座り込みは連合が現役世代中心、全労連側は圧倒的に高齢者・年金生活者。北は北海

道、南は沖縄から参加している。私が高齢者組合から参加した日、横浜市従退職者会もノボリをたて数名参加していました。参加者は地元で街頭・地域・職場での署名・宣伝行動をくりひろげ、集めた国会請願署名を持ち、年金生活者は仲間のカンパで参加しているだけに意気軒昂であ



る。年金改悪反対の運動の広がりを反映しているのである。「寒空のなか高齢者が国会前に座り込んで、ななで先進国、経済大国なのか」「教師をしてきたが70歳になって国会に座り込みに来るとは思わなかった」「このうえ年金から介護保険料引くのか」など怒りの声が聞こえる。隣

に座った兵庫県から「若いお前が行け」といわれて参加したという年金者組合の60歳半ばの女性は「テレビのコマーシャルで公的年金はなくなるから生命保険の個人年金をというのに腹を立てテレビ会社に抗議、放映をやめさせた」と語ってくれました。

委員会に出席しない小淵首相、空席だらけの与党席、採決には続々議員が集まる。目の前に政治の実態を肌を感じる事ができた。「政治を変えなきゃあ」これが参加者の実感である。

労働組合・民主団体も一致できるところで要求と行動を広げ、野党三党の共闘も前進した。なによりもこれをつくりだした署名・宣伝の粘り強い行動とそれにこたえた国民の年金改悪反対の声の広がり。法案が成立したが敗北感はありません。14年前の第1次大改悪のときは大きく変わってきています。「もつともつとがんばらなきゃあ。小淵さん、自公さんよ、年寄りをなめたらあかん」。近づいた総選挙が楽しみになってきました。

高齢者運動

第14回日本高齢者大会

概要決まる

この大会は「ひとりぼっちの高齢者をなくそう」を目標に、平和な日本を築いてきた高齢者が、人として尊ばれ、明るく豊かな老後をおくることを願って、一九八九年京都で第一回大会が開かれました。

今年の高齢者大会は、10月1日(日)～2日(月)の二日間、パシフィコ横浜「国際会議場」で開かれます。

記念講演、基礎講座、分科会、移動分科会、夜の学習講座、お楽しみ交流会などの概要がほぼ決まりました。

記念講演 小山内美江子さん

「中学生日記」などのシナリオライター)

○基礎講座

1—①社会保障「構造改革」の現段階と介護・医療・保健問題

②国際高齢者年と日本高齢期運動10ヶ年行動計画案について

2—①21世紀の国際政治経済

②年金と社会保障

3—①米と水と土の話

②住民運動と自治体い地方分権法をふまえて

○分科会

医療改善、介護保険、障害者・高齢者のくらし、福祉の現場、中年の就労・年金、健康と公衆衛生、高齢期生き甲斐、消費税、農業・食料、生涯学習、美しく老いる、戦争法と基地、君が代・日の丸、組織と仲間づくり、高齢期要求と自治体運動、公害と環境、くらしとボランティア、生き生き交流会の18分科会

○移動分科会

横須賀基地調査、鎌倉歴史散歩、横浜ものがたり2コースの四つ

○夜の学習講座は昼の基礎講座1

①と②

○特別講座

①成人後見法・支援事業をめぐる

②生と性(男と女のいい関係)

③もしも私が痴呆になったら

○特別分科会

①孫への手紙・孫からの手紙

○特別企画：自分史を語る

○夜のお楽しみ交流会

①寄席

②うたごえ喫茶

横浜では二度と開かれない大会です。ぜひ多くの方がた声をかけあって参加しましょう。

読む



老いじたくは

「財産管理」から

中山二基子著

文芸春秋／2000・3・30刊
定価一、三三三円十税

四月に始まった成年後見制度の使い方や、それ以外の方法を現場の話をお手伝いさんに遺言書を書かされた、おいの連帯保証人にさせられた、相続争いで家と土地を手放さなければならなくなった…。トラブルの具体例を読むうちに、「ひとごとではない」と思ってしまう。

著者は約20年前から高齢者問題に取り組み弁護士です。

高齢者運動のシンボルマーク



高齢者運動の先駆地、岩手県沢内村にある「永遠にいのちの灯」

を」の碑を模したものです。命をあらわす丸い玉を両手の手のひらで包み、連帯と協同を象徴しています。

編集後記

今年がGWの休みが長く印刷所も連休、それを考えつつ、鮮やかに輝く緑を横目に会報づくりをしました。

山崎豊子の『沈まぬ太陽』(全五巻)を読みました。凄い…怒りと哀しみで胸一杯の感動。それにしても、この小説を書くための調査、取材力には驚かされます。ちっちゃな会報も、これは大切にしていきたいものです。

この号は、予想外に俳句特集の様相を呈しましたが、いかがですか？健康情報は頁数の関係もあって割愛、つぎの号を期待して下さい。

(木村)

編集・発行 県職労退職者こだま会
発行人 鈴木志げ子
発行日 2000.6.1

No.48

〒231-0005
横浜市中区本町4-37
TEL 045-212-3179(直通)
045-201-1111(内線7953)